

令和元年度第4回 青森市障がい者自立支援協議会 議事要旨

日時 令和2年2月12日（水）10:00～12:00

場所 青森市福祉増進センター 3階 大会議室

出席者 (委員) 石田会長、西村委員、工藤(縁)委員、蠣崎委員、佐藤委員、中村委員、津川委員、今委員、村岡委員、今村委員、野呂委員、木村委員、田中委員、藤川委員、谷川委員、狭間委員、長谷川委員

(計 17 名)

(事務局) 障がい者支援課 金澤課長、佐々木主幹、佐藤主幹、高木主幹、笹原主査、竹内主事、長澤主事、吉川主事

1 開会

2 報告事項

○各部会からの報告事項について

精神障がい者の地域生活支援部会 <委員が「資料 精神障がい者の地域生活支援部会協議等経過報告書」に基づき説明>

就労支援部会 <委員が「資料 就労支援部会協議等経過報告書」に基づき説明>

相談支援部会 <委員が「資料 相談支援部会協議等経過報告書」に基づき説明>

3 各部会での話し合い及び各部会からの報告

(1) 各部会からの報告

<各部会での協議後、協議内容を部会リーダー等から報告>

(委員)「精神障がい者の地域生活支援部会」では、今年度はピアサポーターの活用について話をしてきたが、地域生活支援センターを中心とした動きができてきたので、お手伝いするような活動をしつつ、昨年度前半に話をした金銭管理支援が少し止まっていたので、支援者向け、当事者向けの相談会、研修会のような形で、金銭管理支援について考える場を作るような話し合いをしながら、そういう会を開催できればと考えている。

(委員)「みんなの未来部会」では、市営バスの担当者の方に来ていただき、今年の乗車拒否問題や各委員からの質問に答えていただく場となった。

昨年の方があってから、市営バスの方でも障害者差別解消法やヘルプカードの研修を何度も行っており、また、時間がかかる車いすの固定のスキルアップも重ねて行っていることを聞くことができた。

これからは、障がい者の方から困ったことがあると言ってもらいのを待つのではなく、運転手さんの側から何か困っていることはないですか、といったコミュニケーションがあれば、もっと障がい者の方が市営バスを利用し易くなるのではないかと思います。

(委員)「就労支援部会」では、今年度ずっと行っているガイドブックの作成についての協議を行った。今回は担当から叩き台となるガイドブックの案を出していただき、体裁や具体的な部分について話し合いを行った。

各委員からは、使う側である支援者がしっかり理解できる文章である必要がある、図やイラストが入っていた方がいいといった意見が出た。一方、視覚障がいの方にわかりやすく伝えるためには、文章がしっかりしている必要があるといった意見も出ており、文章と図、イラストのバランスの検討が必要と思われる。

かなり具体的な部分に対する協議になってきたので、ガイドブックを形にするもののほかに、どのタイミングで配布するべきかといった意見が出た。ガイドブックの利用者は相談支援専門員の方と、特別支援学校を中心とする学校の先生方を想定しているので、学生が進路を決めはじめる夏ぐらいには形を整え、配布する前に相談支援専門員の方に使用感を確認していただきながら、最終的な形に持っていければいいのではないかという話になった。

今回は欠席の委員もいらっしやったので、全委員が集まる場面で最終的な確認をしていただき、ガイドブックの作成を進めていきたいと思う。

(2) 部会に参加した委員の感想・意見

(委員)報告と重複するが、今年度話し合いを続けてきたピア活動について、地域活動支援センターを中心とした活動の方針が見えて安心した。

精神障がいの方が地域で生活するには、多くの課題があり、今までも話し合いを続けてきたが、来年度は金銭管理に絞って検討することになるので、当事者や支援者から意見をいただきながら、協議を進めていきたいと思う。

(委員)車いすの方のほか、様々な障がいをお持ちの方がバスを利用することがあると思うが、運転手さんが明るい笑顔で対応してくれれば、気持ちよく乗車できるのではないかと思う。

バスの中での案内や表示は、様々な方が乗車するのに合わせて、韓国語、中国語、英語とかがあってもいいと思う。

また、パンフレット等には電話番号しか記載されていないものもあるので、聴覚障がいの方が連絡できるよう、FAX番号も表記した方がよいのではないかと思う。また、緊急時などの車内アナウンスは電光掲示板などで流すようにすると、聴覚障がいの方は助かると思う。

(委員)何回も集まって協議してきた甲斐があり、担当者からまとまった形でガイドブック案を出していただいた。ボリュームが多すぎると最初から読む気がなくなり、逆に少なすぎると伝えたいことが伝わらないものだが、丁度いい内容になっているのではないかと思う。

大きな三つの課題を持ちながらやってきたなかで、なんでも相談会を終わらせ、現在協議を進めているガイドブックの作成が終了すれば、次に現状把握のためのアンケート

トが協議事項になるかと思われる。委員の人数が少ないなか、いい流れで一つひとつ課題の協議を進められていると思う。

4 その他

(1) 青森市内における盲導犬の受け入れ状況について

<委員が「参考資料1 青森市内における盲導犬の受け入れ状況について」、「参考資料2 補助犬サポートブック」「参考資料3 盲導犬同伴可ステッカー」に基づき説明>

(2) 令和2年度青森市障がい者自立支援協議会日程案について

<事務局が「資料4 令和2年度青森市障がい者自立支援協議会日程案」に基づき説明>

(3) 委員の障害者自立更生等厚生労働大臣表彰について

<事務局が当協議会の委員の方の一人が障害者自立更生等厚生労働大臣表彰されることを報告>

(4) 委員からのお知らせ

(委員) 本年2020年をもって知的障がい者の当事者組織であるブナの森の会が成立20周年を迎えた。ブナの森の会は NPO法人青森市手をつなぐ育成会の一部門という形であり、休日等に様々な活動を行っている。

今年は夏ごろを目途に認知症の勉強会開催を考えている。障がいを持つ方の親など、支援にあたっている周囲の方が認知症になった時どうすればよいのかということをお勉強したいと思っている。

いざという時に役に立つことを行うというのが私のモットーでもあるので、今後機会があれば実施した勉強会の内容もお話させて頂きたいと思っている。

5 オブザーバーの方の感想

(オブザーバー) 精神の部会を傍聴させていただいたのだが、来年度は金銭管理支援について協議を行うということで、今年度協議していたピアサポーターについては一定の成果が出たのではないかと考える。今後もピアサポーターについては、当事者から動きが分かる形で進んで行っていただければ良いと思う。

今回の会議では、委員の方々から報告やお知らせがあり、こういった会議で集まる機会があるということは大切だと感じた。各部会の協議も大事だが、委員の皆さんお一人おひとりの動きを知ると、地域というのはこうやって少しずつ動いているのだと実感させられる。

(オブザーバー) 今日初めて自立支援協議会という組織について知ることができ、こうして様々な方が集まり、障がいのある方が地域で暮らしやすくするために話し合いが行われているということを知れて、得るものが多くよかった

(オブザーバー) 就労支援部会を傍聴させていただいたが、ガイドブック作成などについて聞

くことができ、すべての人にわかり易く伝えることの難しさを学ぶことができた。また、当事者の方の意見からは気付かされることが多くあった。

5 閉会

—以上—